

## 令和８年度第１回府中市地域公共交通協議会 会議録

### 1 日時

令和８年８月４日（火）午前１０時～午前１１時１０分

### 2 場所

府中市役所「おもや」４階会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員（１８名・名簿順）

森本会長、岡村副会長、内田委員、岩澤委員（オンライン）、三浦委員、宮下委員（オンライン）、石井委員、平野委員、川村委員、内山委員、新井委員、久松委員、小町委員、河井委員、太田委員、北村委員、林田委員、山田委員

#### (2) その他

##### ア オブザーバー（代理）出席（３名）

京王電鉄株式会社 柴田氏（濁澤委員代理）、東京都都市整備局都市基盤部交通企画課地域公共交通担当 織田氏、大川氏（吉川委員代理・オンライン）

##### イ 委員随行者（１名）

東日本旅客鉄道株式会社武蔵野事業本部

##### ウ 同席者

ちゅうバス（ワゴンタイプ）運行事業者（つくば観光交通株式会社、三和交通多摩株式会社）、委託業者（株式会社建設技術研究所）

#### (3) 事務局（５名）

轟都市整備部次長、三輪計画課交通企画担当主幹、片桐計画課交通企画担当主査、蓑田計画課交通企画担当、荒井計画課交通企画担当

### 4 配付資料

#### (1) 次第

#### (2) 委員名簿

#### (3) 資料１ 府中市地域公共交通計画の中間評価について

#### (4) 資料２ ちゅうバス（ワゴンタイプ）実証運行の利用状況について（速報）

#### (5) 当日配布資料１ 府中市地域公共交通計画（抜粋）

#### (6) 当日配布資料２ 沿線住民アンケート調査票（見本）

### 5 議事

#### (1) 府中市地域公共交通計画の中間評価について（審議）〔資料１〕

(2) ちゅうバス（ワゴンタイプ）実証運行の利用状況について（報告）〔資料2〕

6 公開・非公開の別  
公開

7 傍聴者数  
0名

8 会議結果

(1) 府中市地域公共交通計画の中間評価について（審議）

事務局より資料1に基づき説明し、けやき並木通りの歩行者交通量の評価指標の変更に関する質疑及び中間評価の基礎調査に関する質疑があった。また、公共交通の利用しやすさに関する市民満足度に係る評価指標について、ちゅうバス路線の再編後の影響をより詳細に分析すべきとの意見、及び次期計画の検討とは別に再編に係る事業の検証を短期的なサイクルで実施すべきとの意見があった。これらについて、確認及び検討のうえ進めていくことを前提に承認された。

(2) ちゅうバス（ワゴンタイプ）実証運行の利用状況について（報告）

事務局より資料2に基づき説明し、多磨町ルート見直しによる公共施設へのアクセスに関する質疑及びちゅうバス（ワゴンタイプ）に係る路線の乗り残し実態や応援車両による対応状況に関する質疑があった。また、今後の乗降実態調査や利用実績の分析結果を踏まえた運行内容の検証を進めていくことについての意見があった。

9 発言の内容

(1) 府中市地域公共交通計画の中間評価について（審議）

○事務局

（資料1に基づき説明）

○委員

9ページの計画目標④、評価指標⑧の「公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合」について達成との説明であったが、グラフを見る限り、令和5年が実績値としてはピークであり、その後減少している。また、令和8年のちゅうバス路線の大幅な改定で運行間隔が大きくなり、利用されている方の不満、不便さは増大しているように思う。このため、令和8年度以降にこの公共交通が利用しやすいと感じている市民の割合が大きく増加するということが考え

にくいのではないかという印象を持つ。最後の説明で、調査の方向性として、再編計画に関する事業として再編後の運行状況の評価検証をされるということであるが、この部分をかなり詳しく検証していただいた方がよいと考える。

一方で、ちゅうバスの持続可能性について、運行間隔を広げるということに関しては受け入れざるを得ない状況と考えるが、市民の満足度と両立させていくために何が必要か、どの階層が一番不満に思っているかなど、かなり詳しい検証が必要ではないかという印象を受けた。

#### ○事務局

ただ今ご質問いただいた満足度、市民アンケートに関する9ページの部分は、当初計画を策定した時に指標として設定したものであり、毎年行っている意識調査をもとにした指標となっている。今年度再編が行われ、検証として利用者アンケートを行っているところであり、今後ちゅうバス（ワゴンタイプ）路線の沿線住民アンケートや乗降実態調査なども行う。中間評価における評価指標として、意識調査だけではなく、再編に伴うアンケートを指標にしていく考え方もあるため、事業の評価という観点からも確認、検討していく。

#### ○会長

委員からのご指摘は大変重要である。データソースとして地域別、年代別等の形で細かく見ることは可能か。意識調査の結果については、世代別などの集計を取っていると思うため、それがどこまで確認可能かは調査部門の確認を取ってもらいたい。詳細分析のうえ何が問題になっているのかを気にしていただきたい。

また、6ページの評価指標②「けやき並木通りの周辺の歩行者交通量」について、集計方法が変わったため目標値も変わるということについては仕方ないと思うが、計画値が実測値を下回っている点はどのように理解すればよいか、再度ご説明いただきたい。

#### ○事務局

今期総合計画の中で指標が改定され、評価指標②について、今までは「けやき並木通りの歩行者交通量」という指標であったものが「けやき並木通りの来街者数」という指標に変更された。データの取り方などを見直したため、計画値では人数が減っている状況になっている。

#### ○会長

歩行者数と来街者数は異なる指標なので数値が減っているということであるが、仮に令和7年以前の来街者数を調べるとして、この緑の線は目標値にふ

さわしい数字になっているという理解でよいか。

○事務局

従前の調査において来街者数という数値を取っていたかについては確認できていないため、そこも含めて従前の指標の結果と照らし合わせるができるか確認する。

○会長

基準が違うということであるが、全体的な整合性が取れているかを確認しながら進めていただきたい。

○委員

19ページの右側「今後の計画策定に向けた基礎調査の方向性について」②の再編実施においてボトルネックとなった事項の改善に資する取組の調査とあるが、再編実施で何がボトルネックになったかというところを具体的に教えていただきたい。

また、収支率の改善について、ボトルネックとなった事項との関連を教えてください。

○事務局

ボトルネックとしてはバス乗務員の不足が大きな課題となっているため、これに対して他自治体の支援策などを調査していく必要があると考えている。

また、収支率の改善について、再編においてワゴン運行についても収支率などを見ながら本格運行への移行も検討していきたいと考えている。

再編実施においてボトルネックになった事項については、再編運行を開始して4か月経った現在において確認を進めている。再編計画の中では、どれぐらいご利用いただくかという目標や、収支率についての目標を立てている。その目標に近づけていくために、再編計画の中でどういうところを見直さなければならぬかということを見つけていくこと自体が確認事項となっており、確認作業を今後この基礎調査の中で行っていきたいと考えている。

○委員

前回の再編の過程の中で、運賃設定に関する議論を提起させていただいた。そういったところが収支率の改善に寄与するところもあると考えるため、その議論も並行して今後も取り組んでいく形で進めていただきたいと考える。

○会長

運賃やバスの乗務員不足はこれからますます厳しい状態になると考えるため、より具体的に交通事業者とも情報共有をしながら、何が実際に改善できるのかということを議論いただきたい。

#### ○副会長

19ページについて、これは中間評価及び次期計画策定のための基礎調査であるため、今年度これから調査の中身を検討して、次の協議会まで検討していくということによいとする。一方で、特にちゅうバスの再編については、来年度ゆっくり考えるのではなく、さらに大きな再編をせざるを得ないような状況が起こり得ないとも限らないため、基礎調査や次期計画を考えていくのはもちろん重要であるなかで、過去に調整してきたルートの変更などと同様の検討の余地はあり得ると考える。この基礎調査において、もう少し早いサイクルの事業の検討や検証、データ提示などをしていただけるとよい。短期の評価や検証と、次期計画のための基礎調査や検討とのサイクルをうまく役割分担するとよいとするため、ご検討いただきたい。

#### ○事務局

次期計画策定に向けた基礎調査の方向性については今年度の最後にご報告できるような形で進める。一方、再編に対しての評価やデータの確認から、この実証運行を一年後にどうするかという議論については、年度末のご報告では間に合わないため、次の協議会やその中間に予定している部会に向け、並行して検討していきたい。

#### ○会長

全体の進捗状況としては評価指標としてA評価が比較的多く見えるが、実施が足りていない点や今ご指摘いただいた点も踏まえ、見直すべきところは見直していただきたい。

### (2) ちゅうバス（ワゴンタイプ）実証運行の利用状況について（報告）

#### ○事務局

（資料2に基づき説明）

#### ○委員

ちゅうバス多磨町ルートについて、中央文化センターや府中市医師会館、ルミエール府中などの公共施設の近くを通っているが、同路線が一部廃止になってしまい、当該施設まで歩くにもちゅうバス「府中町二丁目」停留所では遠

く、市の認識をお聞きしたい。

#### ○事務局

ご質問のあった多磨町ルートについては、路線バスと重複している部分の解消のためルートを見直した。お話のように、中央文化センター付近の停留所はなくなり、同センターに一番近い停留所としては路線バス「ルミエール府中」停留所などがある。手紙などのお問合せでも中央文化センターに行くためにあった方がよいとお声をいただいているが、バス乗務員の人数が限られている中で、いかに効率的に運行していくかを検討しており、利用者の皆様がどの停留所で乗り、どの停留所で降りていくかについての乗降実態調査を9月から実施するため、皆様のご意見を聞きながら、効率的な運行及びサービスを維持する方法を検討していく。

#### ○会長

ちゅうバス路線の見直しに関しては、地域住民の声を聞きながら見直しをしているかと思うが、引き続き地域の声を聞き取りながら、適切な運行や効率的な運行をご検討いただきたい。

#### ○副会長

再編の時の検討では、I Cカードのデータなどをもとに、各停留所の乗降実態をかなりじっくりデータを見ながら検討していた。例えば、先ほど利用者数が減ったということについて、バスが通らなくなった場所の利用者が減ったということであれば想定内であるが、そうでない場合は何が起きているかについてぜひ今後検証などをしていただきたい。

また、4ページについて、想定していた程度の人数は載っているということであると思うが、9人乗りのワゴンであっても乗り残しはどの自治体でも課題になっていて、1便あたり平均乗車人数が5人を超えると月に数回くらいは乗り残しがあるという試算がある。また、平均乗車人数が5人の場合は乗り残し率がおおむね2.8パーセント、4.5人の場合でも1.5パーセントほど乗り残しが発生するとの試算である。60日のうち1.5パーセントということは2か月に1回くらい乗り残しがあるということで、週に数回、1日何便も乗り残しがあるということになると、なかなか厳しい状況であると考え。例えばよつや苑西循環だと1便あたりの乗車人数が約10人であるため、直感的には、かなりの乗り残しがあるだろうという感覚である。新府中街道ルートについても、1便あたりの乗車人数が5人を超えると月に数回は乗り残しの可能性があるという試算をもとに考えると、特に多摩総合医療センター行き（午前中）第1便で乗車が多いというのも理解できる。実態として、3つ

のワゴン路線それぞれ運行事業者が異なり調整が難しいと思うが、武蔵台循環との役割分担など調整の余地はあり得ると考えるため、検討がこれからできるとよい。短期的、中期的にどのような検討や工夫があり得るかという具体的な検討項目について、できる範囲でお話いただきたい。

#### ○事務局

ちゅうバス（ワゴンタイプ）については特によつや苑西循環の利用者数が多く、実際に停留所ごとにどの程度乗り降りがあったかについてはまだ把握できていないため、9月から実施する乗降実態調査の方で正確に見ていき、そこを踏まえてしっかり検証していかなければいけないと考えている。今後の検討の方向性としては、ちゅうバス（ワゴンタイプ）については3つのワゴン路線をそれぞれ別の運行事業者が運行しているため、必要な許可や課題を確認する必要がある。そういった中で取りうる選択肢を検証していきたいと考えており、具体的にこの場で方向性をお示しすることは難しいが、乗降実態調査等でエリアごとのニーズなどを踏まえ、検証していく。

#### ○会長

運行事業者の方がいらっしゃったら、先ほどの副会長の乗り残しの件について実態をお聞きしたいため、コメントをいただくことは可能か。

#### ○同席者（ちゅうバス（ワゴンタイプ）運行事業者）

実際に乗り残しの方はいらっしゃるが朝、昼、夕いつ頃の時間帯が多いかは日によって異なり、実際のところ、応援車両の手配についてはタクシーの稼働率からも厳しいものがある。乗務員も決まった人間しか手配できず、応援車両の依頼があったとしても、手配できないというのが実情である。日によっても状況が違い全く乗り残しがない日もあるなど、実際の傾向については把握できていないところはある。ただ、弊社では、停留所ごとに全ての乗車及び降車された人数のデータを取っているため、今後、市にデータを渡す予定であり、今はデータを確認している状況である。

#### ○会長

なかなか厳しい状態であるということを承知した。データはぜひ市に共有していただきたいということと、乗務員から報告された乗り残しの情報も、併せて市の方にご提出いただきたい。

#### ○委員

私も市民であり、今回のワゴンタイプのバスの影響については、様々な方か

ら、乗り残しの後の応援車両の配車、特によつや苑西循環についてかなり多くご意見をいただいている。まさに会長がお話しされていることを分析して、どのように乗り残しが起きているのかというのを市として把握し、今後どのように対応するかがポイントであると考えているが、市民の方からのご意見をご紹介しますと、今、運行事業者がおっしゃったように、配車がままならず結局乗れなかったというご意見がある。現に乗り残しが発生しているということは市としても認識しており、私のところに入った情報を担当にはそのまま伝えている状況であるが、結構な件数で発生しているのではないかと捉えている。3つのワゴン路線の中では、武蔵台循環は乗り残しがほとんど起きてないという感覚であるが、よつや苑西循環と新府中街道ルートでも、当初は乗れなかった場合は応援車両を配車して全て対応していくというような感覚で市民の方が説明を受けているというお話であった。実態としては、今、副会長にもお話いただいたとおり運行事業者がどう対応できるかというところまでは当初推測の域を出ていなかったもので、全て100パーセント対応するということまでの説明を市民の皆様には差し上げていなかったが、期待値として、今までのちゅうバスのサービスで乗れなかったという経験があまりない市民からすると、乗り残しがあつた場合は全部サポートしてもらえるとという感覚があつたという認識をしている。ただし、実態としては、運行事業者の運行条件もあり、現状としては、結局乗るのを諦めたとか、違う形での交通手段で目的地に向かったというお話をいただいている状況である。

#### ○会長

ちゅうバスの実証運行については、これからデータを精査しながら、実態として制約条件が多いなかで皆様に協力しながら行うことが重要であると考えているため、引き続きご協力いただきたい。

以上